

# 令和7年度 福岡市総合図書館新ビジョン推進に関する点検評価会議 議事録

1 日 時：令和7年8月27日（水）15：30～17：30

2 場 所：福岡市総合図書館 3階 第1会議室

3 出席者：委 員）上村篤子、片山礼二郎、白川義人、白根恵子、田中優（計5名）  
事務局）深堀総館長、松崎館長、永長運営課長、茅野文学・映像課長 他  
傍聴人）1名

## 4 議事録

### 1 開会

委員紹介／事務局紹介

### 2 委員長の選出

委員の互選により白根委員を委員長に選出／総館長挨拶

### 3 議題

#### （1）令和6年度新ビジョン事業計画の取組状況及び内部評価について

事務局より「令和6年度新ビジョン事業計画の取組状況及び内部評価について」説明。

	<p><b>【事業別の評価調書について】</b></p> <p><b>『図書館像：誰もが楽しめる魅力ある図書館』</b></p> <p>委員 ＜1 分館の新設＞</p> <p>図書館だけで対応できない問題とは分かっているが、一言。 分館が着実に増えているのは嬉しいが、もう少し分館のスペースが広ければと思う。よく利用する東図書館は、いつも利用者がいっぱい、もう少しスペースが広ければ、子どもたちも本選びやおはなし会などを楽しめるのではないかと、少し残念に感じている。</p> <p>委員 ＜2 貸出・返却拠点等の新設＞</p> <p>返却拠点の設置基準について、教えてほしい。 返却拠点を市施設や民間施設に設置するときに、課題はあるか。また課題があれば、解決に向けてどのように考えているのか。</p> <p>事務局 返却拠点については、利用者の利便性の向上を考慮しながら、交通の便の良い公共施設を中心に設置を検討している。また、運行計画や設置に係る予算も考慮している。</p> <p>委員 民間施設に貸出・返却拠点を設置したい場合も、大きな課題は無いということでしょうか。</p> <p>事務局 公共施設に限らず、民間施設でも、交通の便や利用者の利便性などを考慮し、検討している。</p>
--	--

委員	<p>評価は、目標値に対してどの程度進捗したかで判断するものと思うが、気になるのは、設定された目標値自体がどの程度適正な値なのかどうか。</p> <p>民間施設まで拠点を拡大していかないと、利用者の分散にとどまり、最終的な目標である利用者の拡大までつながらないのではないか。そういったことも考えて、今後目標を設定してほしい。</p>
事務局	<p>目標値についていただいた要望については、現在策定中の第2次ビジョンの目標設定や事業計画の考え方へ活かしていきたい。</p>
委員	<p>&lt;3 休館日、開館時間の見直し&gt;</p> <p>取組状況については、市政に関する意識調査の結果を基に記載されていて分かりやすかったが、大事なことは、こういった調査の結果を踏まえ、どのような具体的対応策をとるかである。</p> <p>拠点新設の話にもつながると思うが、人数が多い「図書館を利用しない」層の地理的分布、その分布と拠点配置との関連性の有無を教えてほしい。</p> <p>分館の無い空白地帯と利用実態に関連性があるならば、拠点新設の目標を高く掲げるなど、具体的な取り組みにもつながるのではないかと思う。</p>
事務局	<p>「図書館を利用しない」層については、特段の地理的な偏在は見られない。</p> <p>図書館の取り組み自体が市民になかなか伝わりきれていないことで、利用者の拡大に至っていないのかと考える。</p> <p>利用者拡大に向け、市民に取り組みをもっと知つてもらえるよう、「図書館を利用していない」層に向けての取り組みを今後強化しなければならない、と受けとめている。</p>
委員	<p>そういうことであれば、市政に関する意識調査の結果を、例えば地区別、校区別に整理し、「図書館を利用しない」層がどの地域、地区に多いか把握されたらどうかと思う。</p>
委員	<p>感想だが、利用者の分布図のようなものを作ると、その辺りが明確になるかもしれない。</p>
委員	<p>今の話の続きになるかもしれないが、今後の対応策のポイントを教えてほしい。</p> <p>(私も市政に関する意識調査結果を年齢など様々な切口で整理し、分析の材料を揃えるべきだと思う。また分析が終わっているのならば、第2次ビジョンに向けぜひ進めていきたいことは何か教えてほしい。)</p>
事務局	<p>市政に関する意識調査は報告書の形で出されており、年齢別で分析がなされている。ただ、報告書からは、「働きざかりと言われることが多い50代は、男女ともに利用しない人が多い。」「男性は、比較的70代以上で利用が多い。女性は、逆に70代になると利用が少なくなるなど、性別の違いがある。」「読み聞かせなどで子ども図書館などを利用する機会も多いと思われる、30代・40代は比較的利用が多い。」</p>

	<p>ことなどが見られる。</p> <p>地区別については、どの図書館をよく利用したかを聞いており、区別でいうと「総合図書館は、近くの早良区、西区、中央区の方は、利用が多い。」、「博多区は2つの分館が設置されているが、他の区に比べ若干利用が少ない。」ことが見られる。ただ、博多区や南区は、近郊の自治体図書館が比較的利用しやすい環境にあり、広域都市圏の利用連携としてそちらの利用も多いのではと考えている。</p> <p>以上のように区別の分析はできるが、調査項目に町別は無いため、これ以上の分析は難しい。</p> <p>現在、&lt;1 分館の新設&gt;で説明したとおり、南地域交流センター新設の検討が進められている。今まで南区の西南部地域は、図書館がなく、南図書館へ行きにくいということで、近くの広域都市圏の図書館を利用される人も多かったと思う。そういう人がしっかりと利用できるような図書館を作りたい。新設となると1、2年ではなく、もっと長期の期間を要するので、それまでの間は、他の分館や広域都市圏の図書館などの利用を進めていく必要がある。</p>
委員	70代女性の利用が下がる原因は何か、そのあたりの分析もできたらと思う。
委員	<p>&lt;4 図書館イベントの充実&gt;</p> <p>事業計画の中に書かれている、大人向けの講座についてお尋ねする。</p> <p>せっかく色々取り組んでいる中で、働いていると本を読まないというようなベストセラーもあったが、図書館の利用が少ない、「働いている層」に対して、どのようにアプローチしているのか。</p> <p>私としては、現在館長を務めている図書館「BIZCOLI」と競合する部分はあるが、福岡グロースネクスト、エンジニアカフェなど、働いている人が集う他の場所との連携、そういう場所に図書があるというのもよいのではないかと思う。</p> <p>働いている人向けのイベントの予定がないのか、あればどういう取り組みを行っているのか教えてほしい。</p>
事務局	<p>&lt;8 課題解決型支援の充実&gt;にも出てくるが、ビジネス支援として定期的に中小企業診断士による企業経営相談会を開催したり、医療支援として九州がんセンターと連携した常設コーナーの展示や、課題解決型支援のイベントとして大人向けの講座を実施している。</p> <p>また、親が家でも子どもに対して読み聞かせをしてもらえるように、親子向けおはなし会を実施している。</p>
委員	私からもお願いを一つ。先ほど70代になると女性の利用が少なくなるという話もあったので、ぜひ高齢者向けの取り組みも加えてほしい。例えば、遺言の書き方、財産分与、持ち物の整理方法など、いわゆる終活講座のようなイベントがあれば、70代女性も図書館に来てくれるのではないか。
事務局	図書館で行われた相続に関する講座は、自分ごととして関心が高く、参加者も非常に多かった。身近な自分ごとの問題に関する講座は、利用者の関心も高まると思うので、今後もそういう講座を検討していきたい。

委員	<p>おはなし会など色々なイベントを企画しているが、そもそも本や図書館に興味が無い人たちにどうやって来てもらうかということも大事なのではないか。</p> <p>今言われたような、終活講座、遺品整理講座、図書館の空いたスペースを利用した子ども向けの工作講座、親子イベントなど、直接本とは関係ないが、たまたま会場が図書館で、イベントのついでに図書館を覗いてみよう、利用してみようというふうにつながっていくと面白いのではないか。</p> <p>本から少し離れたイベントも検討した方がよいと思う。</p>
事務局	
委員	<p>確かに、ご意見のとおり、本だけでなく、様々なイベントがあると利用者も図書館に足を運びやすくなると思う。</p> <p>現在、総合図書館では、建物の管理をしている指定管理者が様々なイベント、企画を実施している。また図書館としても、ボードゲームを行ったり、子どもや親子向けの工作イベントを実施している。大人向けの講座の例としては、東図書館で、参加費用の負担があるが、花に関連した体験型イベントが数多く実施されている。</p> <p>アンケートで参加の経緯を聞くと、たまたま来て知ったという人も多いようなので、できるだけイベントを広く周知し、気軽に図書館に来てもらえばと思っている。</p>
事務局	<p>イベントの周知に関してだが、子ども向け、保護者向けのイベントであれば、福岡市PTA協議会の理事会等の会議を通して、各小中学校に周知することができる。</p> <p>周知について協力できる部分があるので、この場でお伝えしておく。</p>
委員	<p>提案に感謝する。今後協力をお願いする場面もあるかと思う。</p>
事務局	<p>私の友人は、図書館よりも小さい場所、公民館などで、補助金等を使い、自然の葉っぱを使った冠製作や染め物などのイベントと、本の読み聞かせを連携させる活動を行っている。こういうイベントと図書館が連携できれば、図書館イベントの周知・参加に繋がり、図書館のイベントも案外楽しかった、車で行けば楽だったなど、子どもたちも気軽に図書館に来てくれるのではないかと思う。</p> <p>また、イベント以外のことにも通じるが、例えば神戸市とか、福岡市と同程度の人口を持つ政令指定都市の図書館がどのような取組を行っているかが分かると、現状を比較しやすい。そのような資料を提供してもらえば有難い。</p>
事務局	<p>多くの都市があり、福岡市が先進的にやっている事業もあれば、他都市が独自で行っている事業など、取り組みも様々で、言われるような人口という基準で比較することが難しい。もちろん、他都市の先進事例については、日々アンテナを張り情報収集するようにしている。</p> <p>どの程度情報提供できるかはあるが、良い取り組みでできることについては取り入れていきたいと考えている。</p>

《図書館像　：　さまざまな情報を求める市民に応える図書館》

<6 資料収集の充実>

委員	電子図書館の児童向けの読み放題パックについて、もう少し詳しく教えてほしい。
事務局	<p>電子図書館の本は、基本的に1人が借りると他の人は読めず、順番待ちとなる。読み放題パックは、複数人が同時に読むことができる本のことをいう。</p> <p>ただ、読み放題パックは書籍が限定されており、令和6年度は、小さい子ども向けとしてアンパンマンシリーズや、恐竜のちょっとした漫画のようなものを導入した。この読み放題パックは、借りるという形ではなく、毎回閲覧するという形のため、実績は閲覧回数として計上される。</p> <p>読み放題パックとしてこういう本があればと思うところもあるが、電子図書館を提供している企業から提示されているものの中から、よりよいと思うコンテンツを選んで導入しているのが現状。令和7年度は、アンパンマンのような幼児向けの本だけでなく、中・高生向け、若者が好きそうな小説も読み放題パックとして導入している。</p>
委員	子どもたちは、学校のタブレットで電子図書館を利用しているのか。それとも、自宅で利用しているのか。それとも両方なのか。
事務局	<p>子どもたちには、学校から一人ずつタブレットが貸与されている。</p> <p>しかし電子図書館は図書館のIDが無ければ利用できないため、現在は学校の端末で電子図書館を自動的に見ることはできない。学校との連携で対応できないか、今後の第2次ビジョンでの取り組みとして考えている。</p> <p>以上のことから、子どもたちは、自宅でスマホやタブレットを使い、電子図書館を利用していると思う。ただ、学校の端末でも、図書館の貸出カードを作ってパスワードを設定すれば、電子図書館を利用できるので、学校の端末を利用している人もいるかもしれないが、把握はできていない。</p>
委員	学校との連携が進むと、画期的に利用が拡大するのではないか。期待が持てる話なので、ぜひお願ひする。
委員	読み放題パックに関して、心配なことがある。読み放題パックは結構単価が高く、図書館全体の図書購入費に占める割合もよく検討しないと、紙の本が購入できなくなるのではないかという危惧がある。その点はもちろん考えられていると思うが。
事務局	<p>もちろん図書購入費が潤沢にあるわけではないので、紙の本などの購入との配分も考え、何を図書館に導入すべきか慎重に検討している。</p> <p>言われるように、紙の本と比べると、電子図書館の本は高く、読み放題はさらに高くなる。以前申し上げたかもしれないが、電子図書館の本は、購入したらその後すべて福岡市の所有になるわけではなく、2年間とか、52回までとか、期間や回数の制限があるものがある。</p> <p>そういう条件は図書館側から提示できないので、相手側が提示する条件の中で、コンテンツの内容も含めて、選書している。福岡市としては、期間限定などの条件が無いずっと使えるコンテンツが一番良いのだが、それだけでは市で選書したいと考える電子図書がすべて揃う訳ではないため、バランスを考えて選んでいる。</p>

委員	<p>&lt;7 レファレンス（相談）サービスの充実&gt;</p> <p>私の勤めている専門図書館でも、レファレンスサービスは非常に重要でかつ充実させていかなければならないと思っているが、レファレンスサービスのユーザーが結構偏っており、サービス自体が認知、周知されていない問題があると感じている。</p> <p>この調書を見ると、福岡市の図書館でも同様の問題意識を持ち、なかなかサービスが周知されていないということで、B評価という自己評価になっている。</p> <p>令和7年度、令和8年度に向け、どのような周知方法を考えているのか。図書館の司書を中心に周知を考えると、どうしてもリピーターに偏ってしまうのではないかという懸念がある。</p>
事務局	<p>具体的な検討はできていないが、先ほど申し上げた市政に関する意識調査では、月1回以上図書館を利用する人でも、レファレンスサービスを知らない人が33.3%もあり、なかなかショックな値だった。もちろん、利用していない人ではサービスを知らない割合は75.5%で、ほぼ知られていない状況である。</p> <p>昨年度、レファレンスサービス活用事例について、もっと館内の書籍の近くに掲示したらどうかという意見をいただいたが、実現には至っていない。館内にいても知らない人が多いため、多くの掲示物の中でも目にとめてもらえるような工夫、分かりやすくサービスを利用したくなるような工夫ができればと考えている。</p> <p>外向けの広報としては、今年図書館のホームページの見直しを行うので、どこまでできるか分からぬが、レファレンスサービスの案内とかも分かりやすくできればと考えている。</p>
委員	<p>&lt;8 課題解決型支援の充実&gt;</p> <p>私は、NPO法人の活動として、夜中警固公園に集まくる子どもたちの支援を始めた。集まくる子どもたちは、飲酒以外にも、親のDVが原因の家出など様々な問題を抱えている。支援活動を行っていると、子どもたちとどのように接したらいいのか悩んでいる保護者も多く、図書館の課題解決支援の一つとして、支援の講座、相談会のようなものを何か検討してもらえればと思う。</p>
委員	<p>内部評価の根拠となっている「福岡市おむつと安心定期便」について、教えてほしい。他部局との連携は、図書館のポテンシャルを引き出す取り組みではないかと考えている。</p>
事務局	<p>「福岡市おむつと安心定期便」は、福岡市の子育て支援の部署が行っている事業で、0～2歳までの親子向けの関連事業に参加することにより貯まるポイントとおむつや育児用品を交換するサービスを行っている。福岡市では、様々な部署でこの関連事業に取り組んでおり、図書館も赤ちゃん向けのおはなし会で事業に参加している。</p>
事務局	

	おり、図書館も親子向けの事業で参加している。
委員	私も苦労した経験があるので、苦しんでいる思春期の子どもやその親たちに対して、図書館から何か手を差し伸べることができれば良いと思う。どこに相談したらいいのかわからないという親もいるかもしれないため、専門機関と悩んでいる親子をつなぐ役割を図書館が果たせるといいなと思う。
事務局	思春期の親子に関する問題は、専門的知識を必要とする話だと思う。先ほど言われた「警固界隈」の対応は大きな問題となっており、福岡市その他部署で取り組んでいるところである。図書館としてどこまでできるのか分からぬが、ご提案として伺っておく。
委員	起業・経営相談会の実施回数があるが、目標回数はどのくらいを掲げているのか。目標値を上回ったのか、下回ったのか、実施回数だけでは分からず評価できないので、目標値を教えてほしい。
事務局	起業・経営相談会については、目標は設定しておらず、毎年実施回数が増えていくこと、継続して事業を行うことができたということで評価している。
委員	目標を設定しないで予算はどうやって確保しているか。
事務局	この事業は、他団体と連携し実施しているため、費用は発生しない。
委員	予算に関係なく実施できるということか。それならば、前回実施回数との比較で評価するということか。
事務局	目標値は定めていないので、しっかり実施できたかという観点で評価している。この起業・経営相談会の評価だけではない。赤ちゃんのおはなし会など、他部局との連携においては様々な調整が必要である。展示やイベントも、国の機関などと連携して実施するため、同じことが言える。数値だけで判断するのではなく、全般的に評価している。
委員	<9 団体貸出先の拡大> 公民館の登録団体数は82館で、登録率54%。放課後児童クラブの登録率は94%。公民館の登録が伸び悩む原因、放課後児童クラブの登録が100%に達しない原因を分析していえば、教えてほしい。
事務局	団体貸出は、団体からの申請により登録する制度である。公民館からの声として、団体図書とは別に、既に市からスタンバード文庫として配付されている絵本100冊や地域文庫で足りているというところもある。また、団体登録すると、総合図書館に出向き貸出する本を選書してもらう必要があり、遠方の公民館では、総合図書館に出向いて選書するのが結構大変だと言われることも多い。その他、公民館での本の貸出・返却など、運営を手伝うボランティ

	<p>アがなかなかいないことも挙げられる。</p> <p>そういう事情もあり、こちらから団体登録を勧めても、登録につながりにくい。</p>
委員	<p>つまりは、地域の人的資源が制約になり、どれだけ働きかけても登録が伸び悩むということか。</p>
事務局	<p>そういう状況のため、登録を伸ばすための課題解決の方策について、今後、公民館を所管している部署などと協議しながら、検討できればと思う。</p>
委員	<p>この後にボランティアの育成の事業が挙がっていたが、そこに関連すると理解してよいか。</p>
事務局	<p>言われているものは、本の読み聞かせを行う読書ボランティアのことで、公民館の運営に携わるボランティアとは異なる。</p>
委員	<p>本を運ぶ車は図書館にあるのか。団体貸出で、図書館から本を持って行ってあげることができれば、また状況は違ってくるのではないか。</p>
事務局	<p>配送業務委託契約を締結した業者が、各団体へ本を配送するほか、直接、持ち帰る団体もある。また、青い鳥号という図書配送車があり、遠方で図書館に来ることができない登録がある学校には、依頼があれば、年に何回か本を運んでいる。しかし、経費がかなりかかるため、今後、登録団体が増える事で、本の配送に係る予算の確保などの課題がある。</p>
事務局	<p>本を選べるように並べた形で運ぶことは限られるが、総合図書館で選んだ本について、配送を希望する団体へは配送している。</p>
委員	<p>何百冊と選ぶとかなり重いので、自分で持ち帰らなくてよいならば助かるが、やはり総合図書館に足を運んで本を選ぶというのがなかなか大変なようで、何かいい方法があればとは思う。</p>
委員	<p>他県では、文庫とかの公民館に、図書館が選んだ子どもたち向けの本を何冊とか決めて、結構長期間貸し出しているところがある。例えば1年間とか、団体が希望する期間貸し出すというようにできないのか。団体貸出を受ける場合、団体貸出のための本棚を作るなどいくつかのルールがあり、年に数回選書に図書館を訪れ、持ち帰った本の整理をしなくてはならない。本を入れ替えたいという団体もあるが、あまり入替を希望しない団体もあるので、各団体の希望に沿った貸出ができないのか。</p> <p>私も家庭文庫を始めるにあたって、団体貸出を検討したが、選書や本棚の整備がネックとなり、制度利用をあきらめた経緯がある。貸出の期間をもう少し緩やかに、希望する団体には1、2年貸すとかできれば、登録のハードルが少し下がるのではないか。それは難しいことなのか。</p>

事務局	<p>団体貸出は、福岡市が他都市よりも非常に幅広く行っている事業である。これは一番身近な地域で、本に親しんでもらいたいという趣旨で行っており、できるだけ活用してほしいと思っている。</p> <p>ただ、登録団体も多く、団体用の書籍もかなり膨大なため、どのように運用するのが利用者にとってよいのか難しいところがある。例えば、貸出期間を延ばすと、特定の団体が人気の本を長期間確保することとなり、複数冊準備していても何十冊もあるわけではないので、幅広く利用してもらう観点からの検討が必要と思う。</p> <p>実は一般図書の貸出でも、貸出期間や貸出冊数の拡大について要望があるが、人気本を幅広く利用してもらうことができなくなるという問題もあるので、どういう形がよいのか、全体のバランスや今の利用状況などを踏まえて、検討する必要があると思っている。</p> <p>簡単に結論がでないのはご理解いただきたい。</p>
委員	いろいろ工夫してもらえればと思う。
委員	<p>&lt;10 地域読書活動への支援&gt;</p> <p>各公民館には、福岡市から、スタンバード文庫として、就学前の乳幼児を対象とした絵本が100冊整備されており、非常に役立っていると思う。それに関連して、スタンバード文庫の読み聞かせ講座が、毎年20館から25館ぐらい実施されていて、赤ちゃんおはなし会、本の紹介で、保護者や赤ちゃんに本の楽しさを知ってもらい、図書館やスタンバード文庫の利用につなげているのはとても良いことだと思う。</p> <p>しかし、自分が関わっているこの講座の後、保護者から、小学校での読み聞かせやお勧めの本の紹介など、もう少し大きな子どもに対する相談を受けることがあり、少し残って話をしたりする。</p> <p>読書活動ボランティア講座は、専門講師・団体の実演・指導もありかなり手厚いものだが、やはり受講人数は限られる。</p> <p>地域には、小学校や幼稚園の子どもたちに絵本の読み聞かせをしてもいいかなと思っている人たちもいると思う。そういう人たちに、総合図書館に行かなくても受講できるような講座、実習までは無くとも、とりあえず、本の持ち方、選び方、親子で絵本を読むことの楽しさなどを話してもらえる講座を、もう少し幅広い地域で実施してもらえればと感じている。</p> <p>コロナ前は、各区でそういう親子向けの本の楽しさを伝える講座のようなものが、毎年4か所位で開催されていた。今はそういう講座が無くなっているので、今後再開するのはどうか。赤ちゃん向けの施策は随分良くなっているが、もう少し大きな子どもにも焦点をあててほしい。</p>
委員	各分館で、少し大きい子ども向けの読み聞かせ講座とかが開けるといいかもしれない。
委員	南図書館で開催されていると聞いた。
事務局	去年は主に12月の絵本月間に、南も含めた各分館で、親子向けのおはなし会を行っており、今年も実施する予定と聞いている。

委員	<p>先の委員のお話は、親子向けのおはなし会ではなく、読み聞かせのボランティアを養成するような、絵本の読み方、選び方など必要なテクニックを保護者に伝えられるような講座のことを言っている。</p>
委員	<p>私が言っているのは、思春期などコミュニケーションが取りづらい時期に絵本を話題に話をしたり、空いた時間に親子で本を読みなおしたり、学校の読み聞かせの活動に参加したりするようなきっかけとなる講座があるといいなということである。</p> <p>もちろん親子向けのおはなし会はとても良いもので、実際大人になって読み聞かせが楽しかったと思っている人はたくさんいるとは思う。</p> <p>親子向けのおはなし会に少しプラスアルファをして、読み聞かせボランティアの活動や親子で本の楽しさを見つける、両方のきっかけになるような、もう少し幅広いものがあるといいのではないか。</p>
委員	<p>先ほど別の委員も言っていたが、やはり具体的な目標がないとなかなか評価しにくい。</p> <p>この読み聞かせ講座は、令和6年度は20館で参加者314人。令和5年度と比較すると、実施回数も参加人数も下回っている。実績が令和5年度を下回った理由があれば教えてほしい。不可抗力的なものがあるのか確認したい。</p>
事務局	<p>この講座は公民館からの希望を基に実施しており、講座の案内をした結果、令和6年度は希望が20館あった。そういう状況のため、実施回数が減った原因は分析できていない。</p>
委員	<p>&lt;14 ヤングアダルト層（12歳～18歳）への働きかけの強化&gt;</p> <p>ヤングアダルト向けの図書については、ホームページでPRしたり、ビブリオバトルを行ったりしているが、貸出冊数が伸びたとか、何か効果は出ているのか。図書館だけでなく、学校で借りている可能性もあるので分かりにくいとは思うが。</p> <p>ビブリオバトルについては、私も観戦したことがあり、参加者も観戦者も非常に楽しんでいると感じた。しかし、マニアックな部分が強くて、本好きの若者が集まって、好きなことを話して楽しむ、それを本好きの大人が観戦しているという印象が強かった。</p> <p>そうではなく、ほかに何か、読書に関心がない若者を引き込む工夫ができないかと感じている。</p> <p>一昔前のゲームの攻略本のように、興味があるものについては、どんなに分厚く、私から見たら資料集のような本であっても、子どもたちは熱心に読み込んでいた。そういうことを踏まえ、例えば若者の間で流行っている刀に関連して、武士が出てくる面白い本を特集するなど、考えてみたらどうか。</p> <p>私が運営している文庫でも、小学校6年生の男の子が、大河ドラマを見て武士にすごく興味を持ったようで、ドラマに出てきた武将の本を読みたいと言ってきた。</p> <p>興味があるものを契機に読書に目覚める事例も多いので、若者が興味を持っているその時々のテーマをとらえて、本の楽しさを広報し、それを読書好きな若者が他</p>

	<p>の人に面白い本があるよと発信するというような流れができると、すごく効果があるのではないか。</p>
委員	<p>インフルエンサーのような人が現れるといいのかもしれない。</p>
事務局	<p>ヤングアダルト層に対する読書推進は、一番難しい。</p> <p>図書館内を歩くと、ヤングアダルト層の学習室の利用は多く、学習室利用のため貸出カードを作る若者は増えているが、受験等で忙しいのか、なかなか読書に繋がっていない。</p> <p>私たち大人にとって、ヤングアダルト層にどうすれば刺さるのか、興味を持ってもらえるかを知ることは、非常に難しい。しかし、この層への働きかけは必要だと思うので、引き続き取り組んでいきたい。</p> <p>取組としてA評価としているが、成果としては正直厳しい。</p>
委員	<p>中高生が集まっている学習室に、中高生が読みそうな本の表紙やPOPなどを展示しているのか。</p>
事務局	<p>POPまでは行っていないが、中高生向けのイベント、例えばSDGsに関するワークショップや文学イベントのチラシを置いたり、掲示したりしているが、反応があまり良くなく残念に思っている。</p>
委員	<p>POPなどを置いてみると少しあはらうのかもしれない。</p>
事務局	<p>評価調書にも記載しているが、平成7年度から、電子図書館にヤングアダルト向けの読み放題パックを導入している。電子図書の方が読書を始めやすいかと思うので、そういう広報がもう少しできればいいと考えている。</p>
委員	<p>今の話に関連してだが、いきなり中高生になって読書を始めるのはなかなか難しい。小さい頃からの読み聞かせが大事で、福岡市はその点に力を入れている方だと思っている。</p> <p>しかし、その後の幼年文学から読み物などに入っていく段階が、少し取り組みが弱いのではないか。その対策として、先ほど話をした親子を対象とした家庭での読み聞かせの楽しさを伝える講座が必要だと思う。家庭での絵本の読み聞かせにより、耳を通して本の楽しさを知り、そのうち自分で本を読みたくなっていく、そういう流れを少し強化できたらいいのではないか。</p> <p>文庫を運営してみると、8歳から10歳位の年代が、読書に関心をもってもらう重要な時期ではないかと感じている。絵本をたくさん読み、楽しさを感じていれば、きっかけがあれば興味のある本を自分で読みたくなるはず。本を1冊自力で読めたら、それは自信となり、次の読書につながっていく。すべての子どもに当てはまるということではないが、そういう子もいる。</p> <p>そう考えると、つなぎをしてくれる周囲の大人が重要であり、図書館として何かできることはないのかと思う。具体的対策は思い浮かんでいないが、読書の楽しさを伝える話をいろいろな場所で聞くことができれば、読書推進につながっていくの</p>

	ではないか。
委員	<p>&lt;15 読書活動ボランティア講座の強化&gt;</p> <p>先ほどの話にもつながるが、絵本から読み物につなぐということでは、今の絵本の読み聞かせとストーリーテリングコースだけではなく、ブックトークとかも取り入れるといいかもしない。</p>
委員	<p>特別支援学級の子どもたちが増えてきている。私が小学校の特別支援学級に携わり始めた13年位前は3人ぐらいだったが、今は7クラス、40数人。</p> <p>特別支援学級には、いわゆるハンディキャップのある子だけでなく、記憶や計算が難しい子ども、人との関わりが苦手で時々短時間だけ利用する子どもなど、様々な事情を抱えた子どもがおり、読み聞かせに苦慮している。</p> <p>どのような本を読んだらいいのか手探り状態で、私のように読み聞かせの団体に所属している人は、様々な情報も入りメンバーと協力しながら、割と自由に考えて子どもたちにあわせてやっている。小学校のボランティアが、気持ちだけを持って読み聞かせを始めた場合、子どもたち個人個人に違いがあり、大声や人の接触が苦手だとか、音が好き、リズムが好き、絵を見るのは得意だとか、色々な興味も異なっていること、また先生方との連携など、そういう基本的なことを学ぶ機会がない。</p> <p>教育委員会や生涯学習課など他の部署に関わるものだとは思うが、図書館の協力も必要と考える。</p>
事務局	<p>学校については、教育委員会の各部署と協力しながら支援を行っている。</p> <p>確かに特別支援学級が大幅に増加している。図書館の司書が、特別な支援を要する子どもへの対応について詳しい訳ではなく、教育委員会内には、発達教育支援センターという専門部署があり詳しい。</p> <p>課題として伺い、今後の学校とのやりとりで参考にさせてもらいたい。</p>
委員	<p>&lt;16 学校図書館支援センターの充実&gt;</p> <p>令和7年度から学校司書が増え、大変有難く嬉しいことだと思っている。</p> <p>学校図書館の活動が盛んになることを期待している一方、司書資格を持たない人も学校司書として多く採用されており、こういう人たちに対して、図書館で利用される図書分類法（NDC）など、図書館運営に関する基本的なことについて、学校図書館支援センターできちんと講習してもらえると有難い。</p>
事務局	<p>令和7年度から司書資格を持たない学校司書の採用が始まり、これまで以上に、研修を充実させて実施している。</p> <p>学校図書館支援センターにおいても、司書が講師となって、図書分類法など基本的な説明を行っており、学校図書館からの相談にも対応しながら、しっかり支援を行っていきたい。</p>
委員	評価調書を読むとかなり難易度の高い仕事をしている印象を持ったが、内部評価をAとする根拠がこの文章だけでは分からぬ。数値や進捗した業務内容を示すな

	ど、もっと具体的に説明してほしい。
事務局	<p>全部の項目に目標値がある訳ではないので、取組内容で説明する。</p> <p>今福岡市では、人口増加が続いている、新しい学校ができている。そういう新設校に対する支援を行っている。令和7年度に開校した、学校に登校しづらいと感じている生徒のための百道松原中学校は、総合図書館の近くにあり、連携した取組ができないか考えているところである。</p> <p>そういう点も踏まえ、A評価としている。</p>
委員	既存の学校図書館支援センターの取り組みとどう異なるのか。
事務局	<p>学校図書館支援センターは、既存の学校に対する支援が基本業務となる。</p> <p>一方、新設校の場合、学校司書を配置して図書館を運営する前に、どのような図書館を設置するかという検討が必要になる。その際、図書の専門的知識がある職員が開設準備担当部署にはいないため、支援センターが協議に入り、調整している。</p>
委員	<p>『図書館像：総合図書館の特色を生かした図書館』</p> <p>＜17 図書館外施設での映像資料上映事業＞</p> <p>年度当初よりも実績が上方修正されている、令和6年度当初申込が23公民館で最終的には33公民館で延べ34回開催と、当初よりも実績が上回った理由を教えてほしい。</p> <p>また、令和7年度計画は25公民館であり、昨年度実績よりも控え目に目標を設定した経緯も教えてほしい。</p>
事務局	<p>この事業については、前年度の12月に公民館へ希望調査を実施し、当該希望調査を基に、前年度2月にすべての希望に対応できるよう調整を行っている、この時点での申し込みが、令和6年度当初は23公民館、令和7年度当初は25公民館である。</p> <p>令和6年度については、年度途中に公民館からの追加申込があり、積極的に受け入れた結果、10館増の33公民館、延べ34回開催となった。</p>
委員	この事業は、例年、当初よりも実績が上方修正されると理解してよいか。
事務局	その通りである。令和7年度も年度中途の申込があり、現時点で、実績は30公民館を超えると見込んでいる。
委員	<p>＜19 文書資料のデジタルデータ化・情報提供の充実＞</p> <p>写真のデジタルデータ化を進めており、フィルムを多数所蔵しているということで、非常に興味がある。</p> <p>一般的にデジタル媒体を作成する際、写真をどこから持ってくるかというニーズは増えてきているので、こういう資料の利用申請、ニーズはどうなっているのか。</p> <p>またどのような写真がデジタルデータ化されているのか教えてほしい。</p>

事務局	<p>デジタルデータ化（スキャンして保存）した資料については、市民など一般利用者への提供は行っていない。評価調書にも記載しているが、昔の写真については市の広報担当課が撮影したネガを受け入れている。受け入れたネガは8万件ほどあり、少しずつデジタルデータ化を進めている。外部へのデータ提供については、書籍、報道などのうち公的趣旨が認められる場合に限定しており、年間20件ほどである。手続きとしては、利用申請を出してもらい、個別に判断している。その他、市の内部への提供もある。</p> <p>年々ニーズは増えてきているが、著作権の問題がとても難しく、一般公開はできない。また、広報として撮った写真でも、やはり2次利用については問題があるため、個別に提供の是非を判断している。そういう事情があり、一般のニーズと提供件数は比例しない。</p>
委員	<p>基本的にパブリックな用途に限定したデータの提供、権利関係の問題が提供のハードルということは理解した。</p> <p>広報課が撮影した写真データは、貴重だと思う。</p>
委員	<p>『図書館像：効率的で効果的な図書館運営』</p> <p>&lt;2.1 運営方法の検討&gt;</p> <p>図書館の運営方法として指定管理者制度を導入している点を評価するのか、それとも指定管理業者が市の要求基準を満たしているかという点を評価するのか、どちらの観点で評価すればいいのか教えてほしい。</p>
事務局	<p>指定管理業者の事業運営については別途評価委員会があるので、図書館の運営上、指定管理者制度がうまく機能しているかという観点で評価をお願いする。</p>
委員	<p>&lt;2.3 職員の育成及び技術向上&gt;</p> <p>計画どおりに実施できていればA評価でいいと思うのだが、なぜ内部評価をBとしたのか教えてほしい。</p>
事務局	<p>図書館としては、全体研修は計画どおりしっかりと行っている。</p> <p>司書の専門性を深めるための専門研修については、非常に重要だと考え多くの研修に参加してもらいたいと考えているが、予算の都合もあり十分に受講できているとは言えない。そのため、可能な範囲で研修に派遣したと、いう趣旨でB評価とした。</p> <p>委員からは毎年、長期研修への派遣の要望が出されているが、なかなかそこまで対応できず反省すべき点と思っている。</p>
委員	<p>予算が十分にあるかというとない中で、予算内で100%達成した場合の判断は難しい。資料収集においても、同じことが言える。</p> <p>個人的には、多くのことをしてほしいという市民の要望に応えられたかは別として、予算をきっちり使い対応していればA評価でいいのではないかと思う。</p> <p>予算が十分確保できていないという課題は、別にもっと総合的なところにあるのではないか。</p>

	<p>&lt;24 施設の有効活用などによる財源確保&gt;</p> <p>前の委員が言われたことに近いが、寄付金114%増、駐車場収入103%増なのに、内部評価がBなのはなぜか。先ほどの説明を踏まえると、新しい財源確保ができなかつたからという理由なのか。</p>
委員会	<p>ご指摘のとおり、新しい財源確保の拡大について実現できていない。バナー広告は令和5年度に引き続き令和6年度も契約には至らなかつた。</p> <p>そういう状況が続いていること、また特段の進展が見られなかつたことを踏まえ、令和5年度内部評価Bを令和6年度内部評価として維持している。</p>
委員会	<p><b>【評価調書（総括）について】</b></p> <p>この様式については、A、B、C、Dで評価しないということか。また、成果指標としては満足度が最も重要な指標という認識でよろしいか。</p> <p>入館者数や個人貸出冊数など、目標数値に対する達成度から考えると未達成の部分が目立つかなと思うので、考え方を確認したい。</p>
事務局	<p>委員の言われるとおり、成果指標として利用者満足度を掲げており、その下の目標数値は、成果指標としての満足度を上げていくために達成すべき数値、満足度を上げるための関連数値として位置付けている。</p>
委員会	<p>2ページ目の下に各委員の事業別評価を記入する欄があるが、委員自身が各事業別の評価を集計し、ここに記載するのか。</p>
事務局	<p>この欄は、各委員が評価した事業別の評価調書を基に、事務局が転記するので、委員自身による記載は不要である。</p>

※1～25は事業計画一覧表の事業内容

## （2）令和6年度新ビジョン事業計画の外部評価の提出について

事務局より外部評価提出方法、評価調書の公表について説明し、委員からは異議なし。

### 3. 閉会 館長挨拶